

日本フアイア研究会

Japan Huaier Society

フアイアの取り扱いについて

中国の抗がん新薬であり、本邦にも健康食品として流通している「フアイア」。

悪性腫瘍の患者様から効果や服用量について質問されることがあります。

このパンフレットでは、医師の方に向けて、

日本フアイア研究会が推奨する取り扱い方法等を解説します。

フアイアとは

槐の木には数種類のキノコが発生します。その中でも老木に生えるキノコの一つに、学術名：trametes robiniophila murr（和名：フアイア）というものがあります。現在、天然のものはほとんど見ることができなくなりました。

さて、1980年代に上海がん病院（現復旦大学附属腫瘍病院）に入院していた原発性肝臓がんの患者様へ古来の生薬として処方したところ、完治となりました。同様の事例が相次いだことに着目し、中国政府は産官学の連携にてフアイア菌糸体の人工培養に成功、新薬の誕生となったのです。

現代のフアイアはすべての製造工程が工場で完結しますので永続的に生産が可能で、製品の均質性が担保され、効果と安全性が保証されています。

中国ではフアイアは抗がん新薬として認可されており、肝臓がんには少なくとも六ヶ月間は保険適用されています。フアイアの中国での登録商標は「金克」で中国語の読み（ピンイン）は Jinke です。薬登録番号は Z-20000109 です。

フアイア顆粒は米国国立がん研究所の NCI シソーラス（薬辞典）に登録されています（登録コード C125001）。

フアイアの研究結果

2018年に専門誌 GUT に掲載されたフアイアのエビデンスは「肝臓がん手術後の無再発生存率」で約13パーセント、フアイア服用群の方がよかった、というものです。2020年1月現在、漢方薬、健康食品、サプリメントで1000例規模のRCTで有意差が出たのはこの1論文のみですから、「肝臓がんには効果がある」ということが言えるでしょう。

これ以外にもいくつものフアイアの大規模臨床研究が現在進行しています。大腸がん、乳がん、肝臓がん、そして非小細胞肺癌、閉塞性黄疸などです。非小細胞肺癌と乳がんは現在、二重盲検臨床研究（DBRCT）で進行中です。

試験管や生体を利用した実験レベルではこれまでに「乳がん」「胃がん」や「白血病薬の効果増強」などさまざまな領域で研究発表が行われています。

フアイアの作用メカニズムについて

主成分は PS-T という 6 種類の糖と 18 種類のアミノ酸が結合した多糖蛋白です。しかしながら、フアイアは多成分にて複数の可能性が動物や腫瘍細胞のレベルで報告されています。それらが相乗効果的に働いていると思われます。

NCL シソーラスでは、フアイアを製品化したフアイア顆粒について以下のように解説しています。

「Trametes robiniophila murr(フアイア) の水抽出物を含む顆粒から成る経口の生物学的に利用可能な伝統的漢方薬。槐の老木に見られるキノコで、抗腫瘍活性と抗血管新生活性活性の可能性がある。フアイアがその効果を発揮する正確な作用機序はほとんど知られていないが、投与時に、この薬剤は細胞周期停止とアポトーシスを誘導し、発がんと血管新生に関与する種々のシグナル伝達経路の調節を介して感受性がん細胞の増殖と転移を阻害する。」原文は、NCL シソーラスのウェブサイトより「Huaier」にて検索なさってください。

<https://ncit.nci.nih.gov/ncitbrowser/>

どのようながんにも選択肢となりうる

中国の原材料メーカーのウェブサイトでは「再発と転移を防ぐ」ことがフアイアの強みであると書いています。

それによると、フアイアの重要な役割は「腫瘍幹細胞を正常の幹細胞に戻すこと」であるとしています。がん幹細胞は正常な幹細胞に生まれ変わり、これにより腫瘍の再発と転移を防ぐことが期待できるとのことです。がん幹細胞が腫瘍の再発と転移の原因であると広く信じられていますが、現在の化学療法や放射線療法などはがん幹細胞の再発と転移の根本的な治療になっていません。また、近年発売されている分子標的薬などもこの効果を証明していません。フアイアは「肝臓がんの根治的切除後に効果が証明された世界初の漢方薬」であるとしています。

悪性腫瘍の発生と再発、転移のメカニズムは、がんによって大きく異なるものではありません。加えて、フアイアには複数の作用機序が協働的に働いている可能性があるため肝臓がん以外の他のがんにも同様に効果を表すことも期待できます。

日本ファイア研究会

Japan Huaier Society

ファイアの取り扱いについて

用法・用量についてのアドバイス

まず3グラム、がんが心配なら6グラム、がんが残っていれば20グラムが一応の考え方です。

がんと共存している方、がんが残存している方はファイアを一日20g、手術をして間もない方または半年から一年程度の方は一日3g~6g、一年~五年間がんの再発徴候がみられない方は一日3g~6gを目安にしてください。不快な影響は20グラムから60グラムで稀に下痢が生じることだけです。心配な方はご自身の意思で服用量を加減なさってください。

【プロトコルの一例】

がんが大きくて手術できない方



がんの手術をされたばかりの方



数年前にがんの手術をして現在は再発していないが、不安な方



飲み方のヒント

飲むタイミングは、他の食物の影響を受けにくい「食前」「食間」が望ましいですが、食後でも大丈夫です。

また一包を一日のなかで複数回に分けて飲まれても構いません。まずは少量の熱めのお湯を加えよくかき混ぜ、さらに低めのぬるま湯を加えてかき混ぜると溶けやすいです。慣れると、顆粒を口の中に入れ水やその他の飲み物で胃の中に流し込むことができるようになると思います。ジュースやコーヒー、お茶と一緒に飲んでも大丈夫です。

標準治療と組み合わせて使用する

ファイア研究会に所属する医師はすべて西洋医であり、エビデンスのある標準治療に従事してきました。2020年1月時点では、ファイアは標準治療の補助的役割を果たすものと考えます。

すでに投薬中であれば、その投薬を止めずにファイアを加える方が良いと考えています。内服薬であればファイアと同時に飲まれても大丈夫です。

標準治療の副作用を軽減する効果については、まだエビデンスがありません。

実臨床においては医師の方自らの判断を尊重してください。

日本ファイア研究会推奨製品

当研究会では、市販後調査の対象として株式会社フルフィルラボのファイア顆粒®を採用することとしました。

同社の製品は、中国の医薬品製造工程で作られるものと同じ原材料を日本国内の工場で最終工程を経て梱包されています。

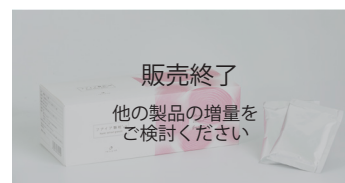
ファイア顆粒®#3 3g/包×30包(3グラム/日、30日分)



ファイア顆粒®#6 3g/包×60包(6グラム/日、30日分)



ファイア顆粒®#20 20g/包×30包(20グラム/日、30日分)



詳しくは同社の医療機関向けホームページをご覧ください。

<https://fulfilllabo.com/>